

# 『物語の形而上学へ』

LIBRARY ICHIKO 159 SUMMER 2023 7月31日 発売予定

1986年に創刊されて37年、本誌はまとめの段階へ入ります。近代エビステモロジーの限界を乗り越えるべく、「生きる／働く／語る」世界を総体的に、世界の最先端の識者とともに、新たな世界を領導する学術世界として探究し直し、以下のような新たな言説生産を蓄積してきました。

(1) 主体・客体を分離し、客観化の総合を測定可能なものに切り取って個別専門化する仕方から脱却し、主客非分離、述語制、場所、非自己の本質原理を日本文化に見出したこと。  
(2) 場所の民俗・伝統の文化技術を発掘しながら、社会空間の画一設計に代わって、場所の固有世界の多様性を探究し、場所リサーチを範型として遂行しつつ場所の実定化の可能性を探究。

(3) 述語制の次元を日本語に見出し、主語制言語様式の国家資本化に代わる、つまり西欧的近代の普遍に代わる「述語制文化」を日本に掴みとったこと。

(4) 自我的主体⇨個人の理性的統一に代わって、非自己の感覚からの感性・情緒・感情の文化的価値を情緒資本として取り出し、emotional intelligenceの可能性を探究する道を開いたこと。

(5) つまり、1〜4は、近代の自己表象⇨自己省察⇨自己技術と展開してきた知の形式を「述語制様式」へと開いてきたのを意味します。

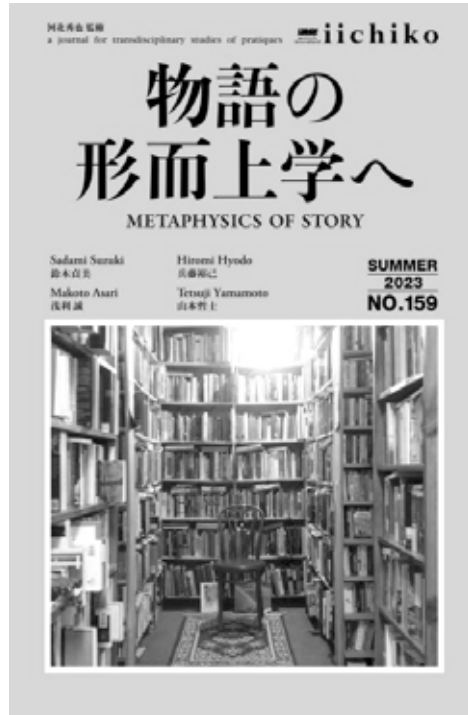
(6) 文化を文化資本・文化技術として捉え、〈もの〉〈物〉の文化基盤を探り、商品世界の文化地盤に多様な「資本」世界を見出し、画定してきたこと。

(7) それを実現する述語的的自己技術として「ホスピタリティ」関係技術を、サービス原理とは異なる文化的原理として様々な分野で活用できる道を開いてきたこと。

(8) 商品・社会・物質科学に代わって資本・場所・生命科学の環境世界を、場所の文化環境づくりとして示してきました。

超領域的専門研究とその学術体系の構築⇨実定化領域を、実際世界へ活用すべく、世界第一線の研究者・学者と協働しながら、大転換する世界を領導しうる通道を開いてきましたが、日本にはギリシア哲学に典型な哲学言説が存在しないことを超えるべく、物語の歴史、歌謡の言説、そして日本語への省察から新たな哲理言説を創造生産することが、まとめの求められています。情緒資本の文化世界に、知的資本が潜んでいるということです。世界の閉塞性は、そこから開かれていくと確信します。

日本の文化資本が述語制文化にあること、そこで作用している非分離の文化技術を、情緒資本と知的資本の現働力として稼働させて、世界へ貢献できる文化学へと3年をかけてまとめていきます。かかる「はまとめ」のスタートとなる舵取り転換と方向づけのモメントである今回の特集です。



A5 変形 128頁 1650円 (本体+税10%)

【監修・アートディレクター】  
河北秀也 (かわきた ひでや)  
1947年生まれ。日本バリエールアートセンター主宰。著書に『デザイン原論』など。本誌プロデューサー、アート・ディレクター。

【編集・ディレクター】  
山本哲士 (やまもと てつじ)  
1948年生まれ。  
政治社会学、ホスピタリティ環境学。  
主な著書に、『ミシェル・フーコーの思考体系』、『ホスピタリティ講義』、『国つ神論』、『くもの日本心性』、『高倉健・藤純子の任侠映画と日本情念』、『フーコー国家論』ほか多数。

「LIBRARY ICHIKO」は季刊誌です。次号は二〇二三年十月末発行予定

ご注文は「R〇〇〇」→ Fax. 03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局

tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

物語の形而上学へ

LIBRARY ICHIKO 159 SUMMER 2023 1950円 (税込)

ISBN 978-4-910131-38-2 C1010 ¥1500円

書店名

部数